

令和四年度

岡山県立岡山大安寺中等教育学校

適性検査Ⅱ

【注意】

- ・ この検査は、文章や資料を読んで、太字で書かれた課題に対して、答えやあなたの考えなどを書く検査です。課題ごとに、それぞれ指定された場所に書きましょう。
- ・ 検査用紙は、表紙（この用紙）をのぞいて三枚あります。指示があるまで、下の検査用紙を見てはいけません。
- ・ 「始め」の合図があつてから、検査用紙の枚数を確かめ、三枚とも指定された場所に受験番号を記入しましょう。
- ・ 検査用紙の枚数が足りなかったり、やぶれていたり、印刷のわるいところがあつたりした場合は、手をあげて先生に知らせましょう。
- ・ 検査用紙の

※

 には、何もかいてはいけません。
- ・ この検査の時間は、四十五分間です。
- ・ 表紙（この用紙）と検査用紙は、持ち帰ってはいけません。

課題1 次の文章を読んで、(1)から(4)に答えましょう。

科学は、病気を治す薬を^ア発明したり絶滅危惧種を守ったり、世界そのものを変える力もちます。一方、文学は、世界のとらえ方を変えるものです。

A 静寂は爆音である花吹雪 又吉直樹 『芸人と俳人』

芥川賞作家の芸人・又吉直樹さんの俳句です(集英社文庫所収)。音もなく桜の花が散る、美しい光景です。しかし又吉さんは、その静寂を「爆音」だととらえました。静寂が正反対の爆音のように感じられるほど、圧倒的な孤独の中にいるのでしょうか。散る桜も狂気を帯びているようで、なおさら目が離せません。私はこの句を知ってから、静かな桜を見るたび、聞こえない爆音を聞きます。

B もりあげてやまいうれしきいちご哉 正岡子規 『子規全集』

明治二十八年、病で生死の境をさまよい一命をとりとめた子規は、神戸の病院に入院していました。後輩の高浜虚子と河東碧梧桐は、看病のために毎日、近くの農園から苺を採ってきます。くだものが大好きな子規は、山盛りの苺を用意してもらえるのも病気がなったおかげだ、病気は嬉しいものだなあ、と詠みました。ふつう、病気は嫌なものです。でも、子規はあえて、発想を変えました。言葉の力で、逆境も肯定してみせたのです。

科学で解決できないことを前にしたとき、私の世界を言葉で変えるのが、俳句の力です。その力は、俳句を受け取った人の世界をも変えうるのです。

「俳」という字のつくりである「非」には、「そむく。逆の方へ向く」(『新漢語林 第二版』)という意味があります。あえて常識にそむき、違う考え方を採用してみることで、逆境をのりこえる力が生まれ、自分とは異なる他者への理解も深まります。

「こう考えてみたらどうだろう」と思考に角度をつけ、マイナスをプラスに変えてみましょう。俳句には、現代を生き抜くヒントがあります。過去の俳人たちは、言葉の想像力で、答えの出ない困難を乗り越えてきました。みなさんもまた、解決できない問題の山積する、分断と混乱の時代へ漕ぎ出してゆくことになります。そのとき、俳句という詩の考え方を装備に加えておくことで、自分らしさを見失わず生きてゆけるかもしれません。

C 俳諧や木の実くれさうな人を友 正岡子規 『子規全集』

木の実はいした役に立ちませんが、心を灯します。受け取ったとき、ふと笑みがこぼれます。「俳諧」は俳句とは、誰かと木の実を差し出し合い、友だちのように語り合える、あたたかい詩です。言葉を通して、他者と心を通わせる経験は、きつとみなさんの財産になります。

私たちはふつう、明日もあさっても、今日と同じ日常が続くと思っています。でも、そんな保証はありません。それに、俳句をはじめると、今日と同じ日は二度と来ないことに気づきます。朝焼けに染まる雲のかたち、朝ごはんのウインナーの焦げ、「おはよう」とあくびする友だちの寝ぐせ、教室を吹き抜けてゆく春風のやわらかさ。それらはすべて、今、この瞬間にしか存在しないものです。

今日がもし、世界最後の日だったら、なんでもない日々の風景も、一度っきりの今として、輝きだすでしょう。そのかけがえない世界のかけらに心ときめくとき、あなたはもう、りっぱな俳人です。

(神野紗希著 『俳句部、はじめました——さくら咲く一度っきりの今を詠む』から)

*1 絶滅危惧種：地球上から姿を消すことが心配されている生物。 *2 俳人：俳句を作る人。
*3 芥川賞：新人に与えられる文学賞。 *4 所収：その本にとり入れられていること。 *5 哉：感動の気持ちを表す言葉。
*6 正岡子規：明治時代に俳人や歌人として活やくした人。 *7 肯定：そのたとみとめること。 *8 新漢語林：漢字辞典の一つ。
*9 山積：山のようにたくさんたまること。 *10 くれさうな：「くれそうな」の昔のかなづかい。

(1) ア「発明」、イ「発想」のように、「発」を使った言葉はたくさんあります。「発」を使って、「発明」「発想」以外で、解答らんに当てはまるように漢字二字の言葉を作りましょう。ただし、「一」や「百」などの漢数字を使つてはいけません。また、同じ漢字も二回以上使つてはいけません。

※

発

発

発

発



(Ⅱ-3)

受検
番号

3※

課題3 太郎さんと花子さんは、日本の農業と気候について調べ、先生を交えて話し合いました。あとの会話文を読んで、(1)～(3)に答えましょう。

太郎：二毛作という言葉を知ったので、どのようなものかインターネットで調べて資料1にまとめました。二毛作とは、資料1のように、1年間に米と小麦などの異なる2種類の作物を同じ耕地でさいばいすることです。

先生：それでは、二毛作はどのような地域でさかんに行われていると考えますか。

花子：二毛作のさかんな地域は、その地域の気候と大きな関係があると考えました。そこで、資料2の2つの都市の気候と降水量を比べてみました。

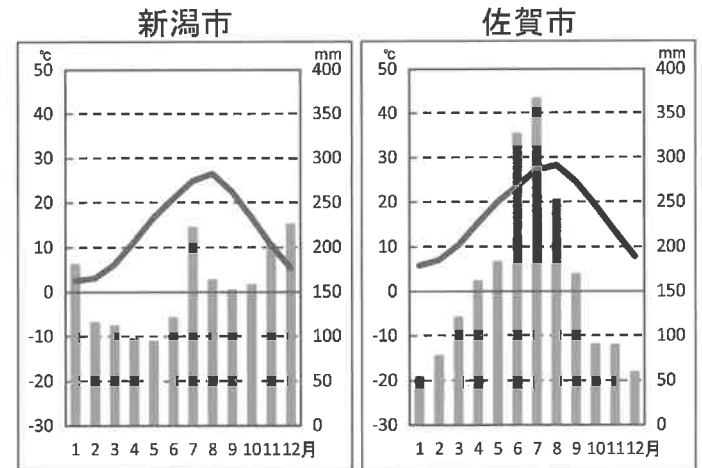
太郎：この2つの都市では、どちらで二毛作がさかんに行われているのだろう。

- (1) 新潟市と佐賀市では、どちらの都市で二毛作がさかんに行われていると考えますか。資料1、資料2をもとに2つの都市の気候を比較しながら、あなたの考えを書きましょう。

資料1 二毛作の1年間の作付けスケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
内容	小麦のさいばい				小麦の 収穫	田 植え	米のさいばい				い ね かり	小麦の 種まき

資料2 新潟市と佐賀市の月別平均気温と月別平均降水量



(気象庁の資料から作成, 1991年～2020年までの平均)

※

太郎：農業といえば、日本では弥生時代を中心に米づくりが始まったと学習しました。

花子：狩りや採集が中心だった生活が、米づくりが始まったことで大きく変わったようですね。

太郎：どのような変化があったのかを資料3にまとめました。資料3のようにお墓や矢じりに変化があったことがわかりました。

先生：なぜ、お墓や矢じりはこのように変化したのでしょうか。その理由を考えてみましょう。

資料3

	狩りや採集が中心の時代	米づくりが中心の時代
お墓	・住居の周りに小さいお墓が複数作られた	・小さなお墓に加えて、大きなお墓が作られた ・大きなお墓の周りに石やつぼがかざられた
矢じり	・大きさ：1～3cmほど ・材料：石 ・形状：うすくて軽い ・特ちょう：遠くまで速く飛ぶ	・大きさ：1～6cmほど ・材料：石や鉄などの金属 ・形状：厚くて重い ・特ちょう：深くささる

(あいち朝日遺跡ミュージアム資料, 愛知県埋蔵文化センター紀要などから作成)

- (2) 米づくりが中心になった時代に、お墓と矢じりに資料3のような変化がみられるのはなぜですか。変化した理由として考えられることを、それぞれについて米づくりと関連付けて書きましょう。

※

お墓

※

矢じり

先生：日本で米づくりがさかんになったのは、日本の気候と米の育つ条件が合っていたからですね。このように日本の気候や自然かん境は人々にめぐみをもたらす一方で、自然災害を起こし、ひ害をもたらすこともありますね。

太郎：学校では、地域の防災意識を高める取り組みを学習しました。

花子：災害に備えて、準備や対策をしておくことが大切ですね。私が住む地域では、今度、ひ難訓練をする予定です。ひ難訓練をしてみると、実際のひ難の時に困ることなどがわかるかもしれません。

- (3) 花子さんは地域のひ難訓練に参加して、「ひ難行動要支えん者」(ひ難時にだれかの助けを必要とする人)への支えんが課題であることを知りました。「ひ難行動要支えん者」がどのような人か具体例を1つあげ、その人がどのようなことに困るか、また、その人に対して地域の人たちはどのような支えんができるか、あなたの考えを書きましょう。

※